

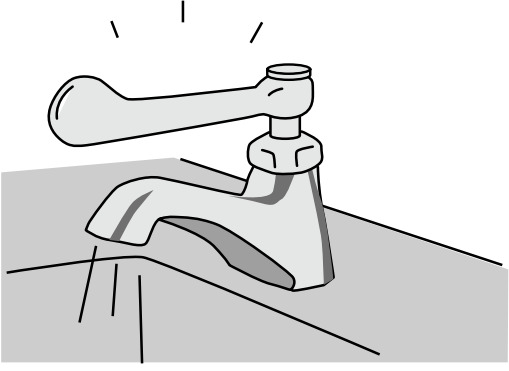
第4章 みんなにとって優しいまちってどんなまち？



ユニバーサルデザインって知っていますか？

ユニバーサルデザインは、体の不自由な人もそうでない人も、外国の人も子どもも、すべての人が利用しやすいように考えてデザインすることです。

例えば、蛇口のレバーは力を入れなくても水が出せるように、ひねらなくてもよいレバー式のものが増えていきます。



子どもや高齢者でも、力を入れずに水が出せるレバー式蛇口。



絵を使った案内表示なら、子どもや外国の人にもわかります。



バリアフリーもユニバーサルデザインも

バリアフリー

障害者や高齢者など、特定の人を対象として、生活上のバリア（障壁）を取り除くこと。

例えば、入口に段差がある建物にスロープを付けることなど。



ユニバーサルデザイン

すべての人にとって、利用しやすいように考えること。例えば、駅で階段を使わずに階を移動できるように設置されたエレベーターなど。これから新たに物を作る場合には、ユニバーサルデザインの考え方が大切です。

すべての人が安心して、安全・快適に生活するためには、バリアフリーもユニバーサルデザインも大切なことです。みんなの身の回りにどんなものがあるでしょう？





みんなの身近にある工夫

硬貨は、見なくても触って区別ができるように、それぞれ大きさが違ったり、穴が開いていたりします。お札もそれぞれ大きさが違い、指で触って分かるように、左右両方に印がつけられています。



※じつぶつのマークは、あかいろではありません。



テレビのリモコンは、誰でも使いやすいように同じ数字の配列になっています。また、目が見えない人でも触って分かるように、5のボタンに小さなでっぱりがついています。

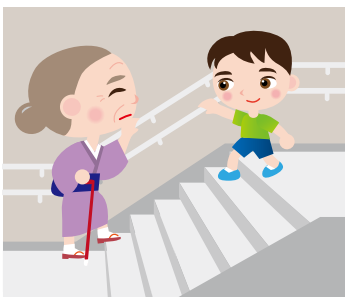
耳が聞こえない人や、聞こえにくい人でもわかるように、テレビに手話通訳がある番組があります。また、障害者だけでなく、みんなが見やすいように字幕が付いている番組もあります。



体が不自由な人も硬貨を入れやすいように入れ口を大きくした自動販売機があります。また、子どもや車イスの人でも上の段の飲み物が買えるように、低い位置にボタンを設置しています。



背が低い子どもや高齢者の人でも使いやすいように、手すりや2段になっていたり、握りやすいように波型になっていたりします。



他にもいろいろな工夫があります。みんなもまちに出て、どんな工夫があるか探してみよう。



みんなにとって優しいまちづくりの工夫を探してみよう！

てんじ
②点字ブロック

め ぶじゆう ひと ゆうどう
目の不自由な人を誘導する
てんじ ほどう たてもの
点字ブロック。歩道や建物の
なか せっち
中に設置されています。

しょうがいしゃとうせんようちゅうしゃじょう
①障害者等専用駐車場

ちゅうしゃ ばしょ ひろ しょう
駐車する場所を広くとり、障
がいしゃとう くるま つか
害者等が車いすなどでも使
ちゅうしゃじょう
いやすい駐車場。

2

1

3

4

だんさ いりぐち
④段差のない入口

だんさ つえ
段差がなく、杖をつい
こうれいしゃ くるま
た高齢者や車いすの
ひと はい いりぐち
人も入りやすい入口。

③ノンステップバス

こうれいしゃ こ の お
高齢者や子どもが乗り降りしやす
いように、だんさ
段差をなくしたバス。

くるま
⑥車いすでも
はい こうしゅうでんわ
入れる公衆電話

くるま ではない
車いすのまま出入り
で
ひろ こうしゅうでんわ でん
きる広い公衆電話。電
わ き ひく いち
話機も低い位置にあ
ります。

⑤スロープ

くるま ひと あし ふじゅう ひと りょう
車いすの人や足の不自由な人も利用し
やすいように設置されているスロープ。



⑦バリアフリースイレ

こうれいしゃ くるま ひと
高齢者や車いすの人、
こ ひと
子どもづれの人など、
りょう
みんなが利用できる
ひろ
広いトイレ。

おんきょうしんごうき
⑧音響信号機

め ふじゅう ひと しんごう か
目の不自由な人が信号が変わっ
たことがわかるように、音で知ら
せる信号機。



こんなマークを知っていますか？

障害者のための国際シンボルマーク



車いすを使う人はじめとしてみんなが使いやすい建物や駐車場、トイレなどの施設があることを示す世界共通のマークです。

身体障害者標識



体に障害のある人が運転する車を示すマークです。

聴覚障害者標識



耳に障害のある人が運転する車を示すマークです。

盲人のための国際シンボルマーク



目に障害のある人が使いやすい建物や、信号などの施設を示す世界共通のマークです。

ほじょ犬マーク



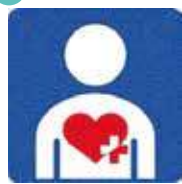
盲導犬・聴導犬・介助犬など、目や耳や手足に障害のある人の体の一部となつてはたらく補助犬の受け入れを示すマークです。

オストメイトマーク



人工肛門や人工膀胱をつけた人が使いやすいトイレなどの設備があることを示すマークです。

ハートプラスマーク



体の中に障害のある人を示すマークです。

白杖頭上50cmシグナル



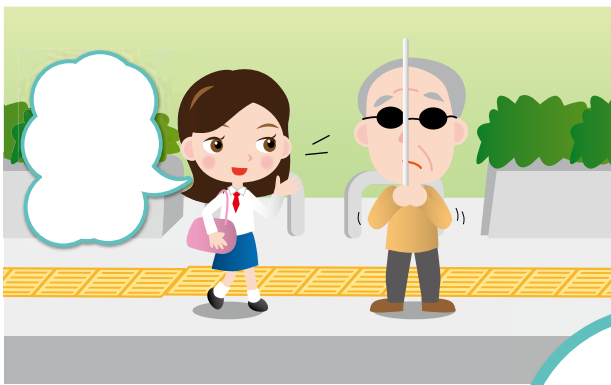
このポスターのポーズは、目の不自由な人が街中で迷ったり、不安や危険を感じたりした時に、周りの人たちに助けを求める時のシグナルとして、福岡県から全国に発信しています。
※視覚障害のある人が、みんな白杖を利用していただけるわけではありません。ポスターのシグナルだけでなく、困っている人を見かけたら声をかけましょう。

バリアフリーやユニバーサルデザインにおいて、建物
や乗り物、道路などを誰もが利用しやすいように整
備することももちろん大切ですが、それ以上に「思い
やりのこころ」が大切です。

いくら設備が整っていても、まわりの人が使う人の
ことを理解していないと意味がありません。また、設
備が整っていない場合でも、少しの手助けで解決で
きることもあります。

みんなにとって優しいまちにするためには、一人ひとりが「お互いを理解し思いやる気持ち」をもつことが大切です。

みんなも、気づいたこと、できることから始めてみましょう。



どんな
声を
かけている
のかな？

